

福井鉄道福武線とえちぜん鉄道三国芦原線との 相互乗り入れに関する基本的な考え方

I. 相互乗り入れの目的

- 県民の高い関心に応え利便性の向上を図るとともに、両鉄道の利用者を増やす。
- 人口が減少する中、高齢者が増加する本県の社会情勢に対応した集約型のまちづくりを後押しする。
- 地球温暖化防止の観点からも、過度に自動車に依存した移動手段から公共交通への転換を図る。
- 福井都市圏の中心である福井市を核とし、嶺北一円の交通ネットワークの形成・充実を目指す。

II. これまで行なった整理

- 県と沿線市町、両鉄道会社は、これまで相互乗り入れの具体的な運行パターンや区間などについて意見交換を行い、既存の設備を最大限活用する中で、実施可能な案について以下のような整理を行なった。

- 乗り入れを行なう上で、車両の規格に制約のない福井鉄道が、第1段階として、田原町駅からえちぜん鉄道三国芦原線に乗り入れる。乗り入れ区間は、駅周辺人口や交通結節機能の高い新田塚駅までとする。
加えて、それぞれの沿線での催し物などに併せた臨時（季節）列車を運行する。
- 第2段階として、乗り入れ区間を西長田駅まで延伸し、えちぜん鉄道が車両を導入した上で福武線に乗り入れ、相互に運行する。

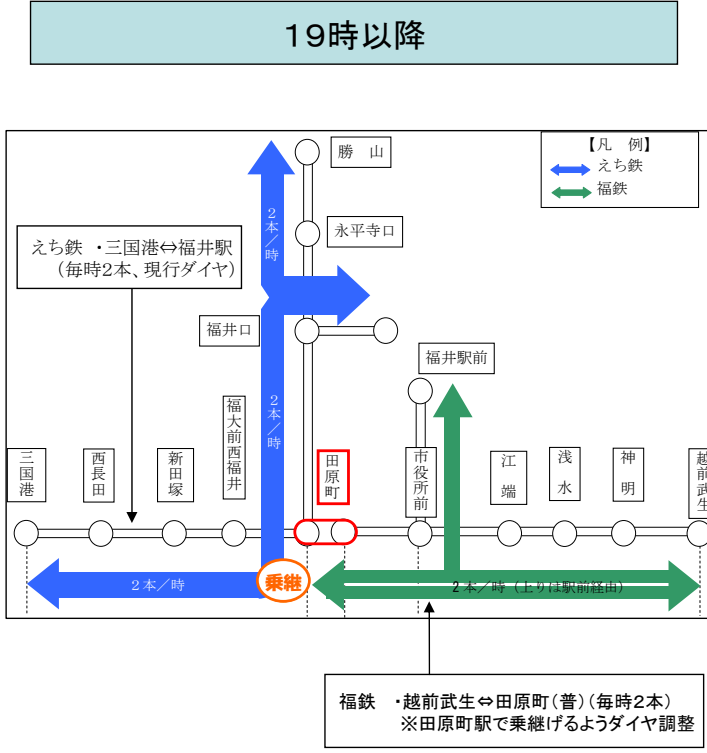
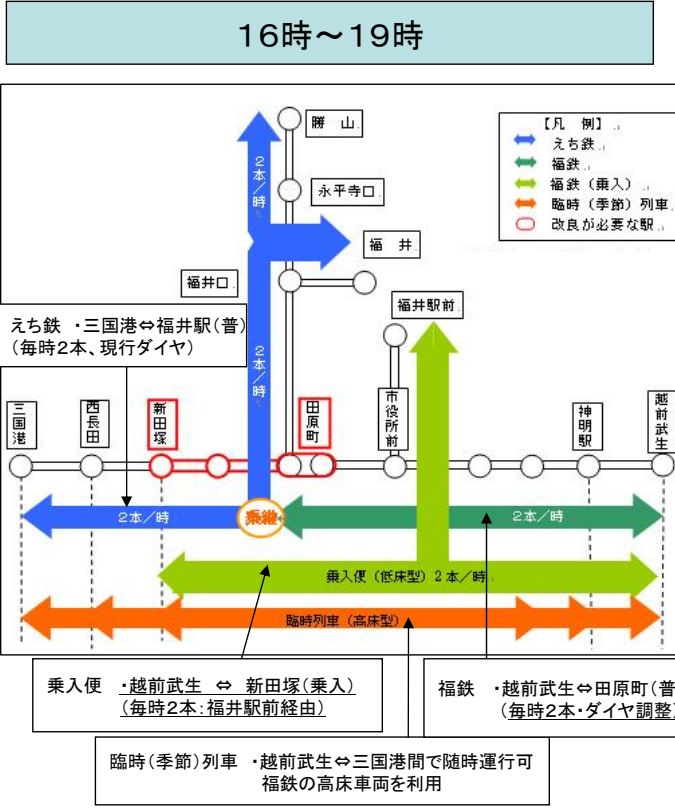
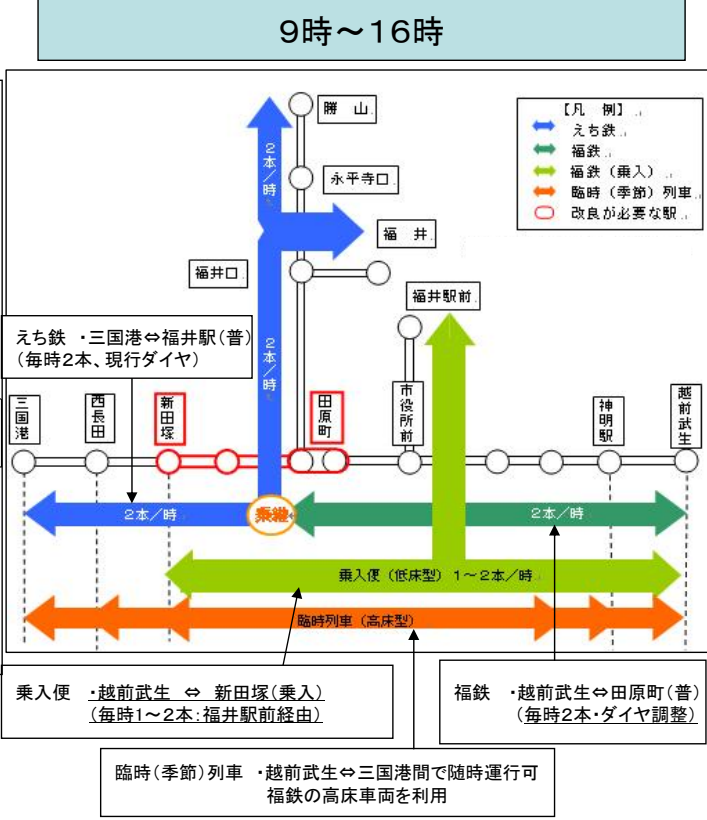
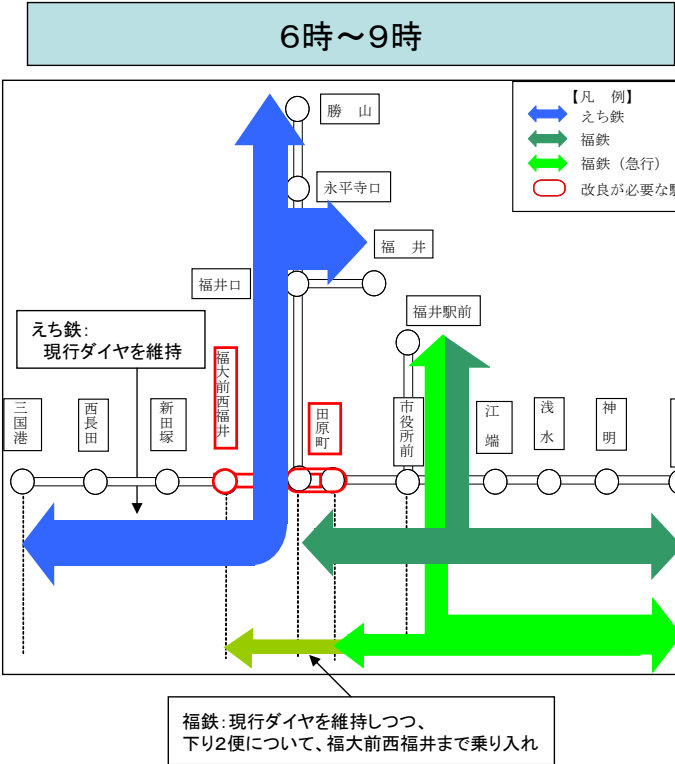
III. 「事業検討会議」の設置目的

- 相互乗り入れを行うためには、両鉄道事業者や沿線市町に加え、道路管理者、警察、さらには、事業補助を行なう国など関係者の意見を調整する必要がある。
- このため、相互乗り入れの事業化について県は、「事業検討会議」の開催を関係者に呼びかけ、意見調整・集約を行なう。

IV. 「事業検討会議」における協議事項(主なもの)

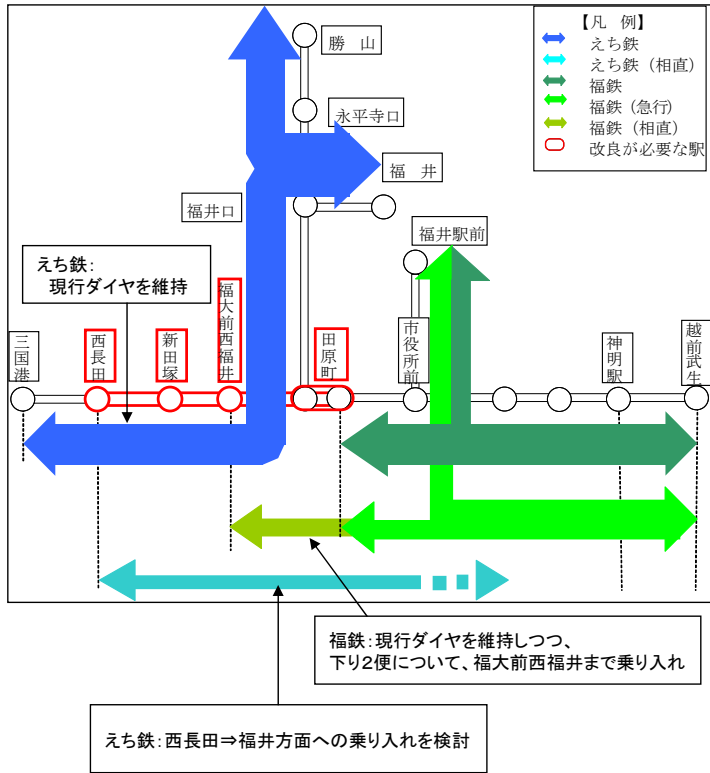
- 第1回(5月下旬)
 - ・ 運行区間や運行形態
 - 第2回(7月予定)
 - ・ 収支および採算性
- ※ 田原町駅などの概略設計調査を下半期に実施できるよう、事業案のとりまとめ予定

相互乗り入れの運行イメージ（第1段階：新田塚延伸）

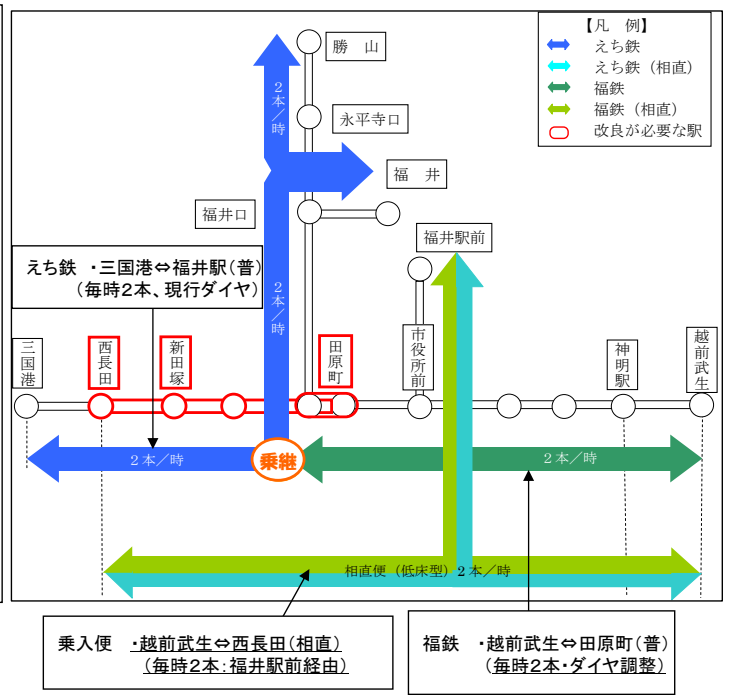


☆必要となるハード整備（※駅改修、行違施設、車両等の増）
 えち鉄：4か所（福大前西福井、日華化学前、ハツ島、新田塚）
 福鉄：1か所（田原町）
 車両：追加なし

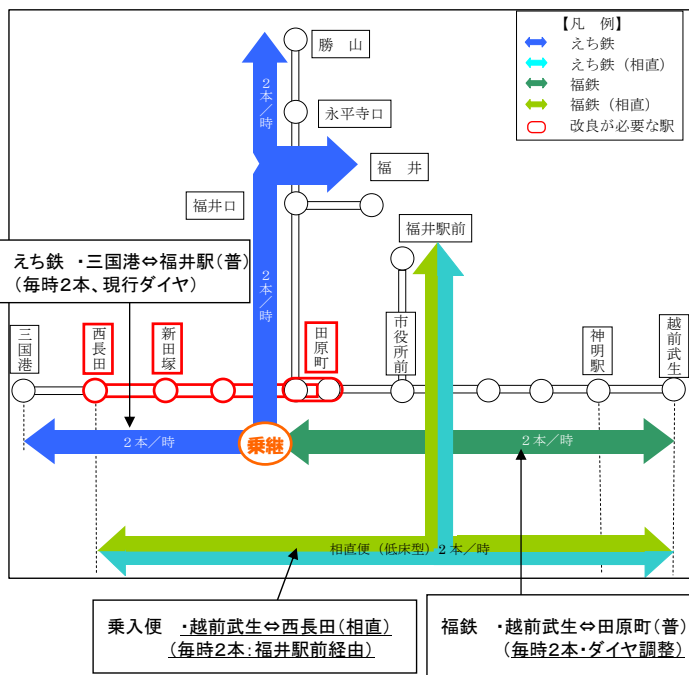
6時～9時



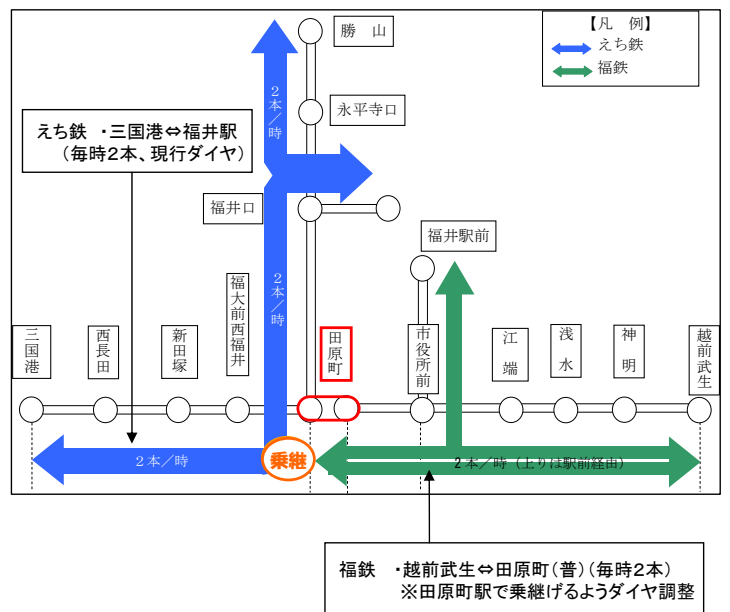
9時～16時



16時～19時



19時以降



☆必要となるハード整備（※駅改修、行違施設、車両等の増）
 えち鉄：9か所（福大前西福井、日華化学前、ハツ島、新田塚、
 中角、鷺塚針原、太郎丸、西春江、西長田）
 福鉄：1か所（田原町）
 車両：3編成増

相互乗り入れの今後の見込みについて(案)

平成22年 5月 27日

1 今後の見込み

整備段階	乗入駅	必要となるハード整備	H22	H23	H24	H25以降
第1段階	新田塚駅	福井鉄道 田原町駅の改修など (事業主体：福井鉄道連携協議会)	事業検討会議①	調査（概略設計）	設計・工事	福鉄乗入れ開始
		えちぜん鉄道 福大前西福井駅から新田塚駅までの整備 (事業主体：えちぜん鉄道)		事業検討会議②		
			23年度の事業開始に向け、必要な検討事項を整理		事業開始後も、必要な事項について随時協議	
第2段階	西長田駅	えちぜん鉄道 中角駅から西長田駅までの整備と 低床車両3編成の導入 (事業主体：えちぜん鉄道連携協議会を想定)			えちぜん鉄道の連携計画策定が必要 (策定主体：市町)	相互乗入れ開始

2 考えられる事業手法

- ・国土交通省の地域公共交通活性化・再生総合事業（総合政策局）や幹線鉄道等活性化事業（鉄道局）または社会資本整備総合交付金の活用（都市局）など。
- ・ただし、地域公共交通活性化・再生総合事業を活用するためには、連携協議会を設置し連携計画の策定（変更）が必要